

生活におけるゆとりが楽器を学ぶ意欲に及ぼす影響

The Effect of "Yutori" in Daily Life on Learner's Motivation
for Learning Musical Instruments

渡邊 文枝* 富永敦子** 向後 千春**
Fumie Watanabe* Atsuko Tominaga** Chiharu Kogo**

早稲田大学大学院人間科学研究科* 早稲田大学人間科学学術院**
Graduate School of Human Sciences, Waseda University*
Faculty of Human Sciences, Waseda University**

<あらまし> 本研究では、どのような要因が楽器を学ぶ意欲に影響を及ぼすのか、生活におけるゆとりとの関連から検討した。検討にあたっては、楽器を学ぶ意欲尺度およびゆとり感尺度を用いた。因子分析の結果、楽器を学ぶ意欲尺度からは7因子33項目、ゆとり感尺度からは5因子29項目が抽出された。さらに、楽器を学ぶ意欲を従属変数、ゆとり感尺度の5因子を独立変数として重回帰分析を行った結果、挑戦できる余裕が重要な要因であることが示された。

<キーワード> 生涯学習 音楽 楽器演奏 学習意欲 尺度の開発 ゆとり

1. はじめに

1.1. 背景

近年の生涯学習では、「教養の向上」が注目されており（文部科学省 2013）、なかでも、音楽やスポーツなどの余暇学習について関心が高まっている（内閣府 2012）。しかし、余暇学習から得られる技能は明示的な利益を生みにくいいため、学習を継続・完了させる動機づけが弱いという問題もある（徳弘・比嘉 2013）。

音楽における学習意欲の要因を調査した研究には、齊藤（2008）が挙げられる。齊藤（2008）は、中学校吹奏楽部における冬期練習の動機づけとなりえる具体的な要因を調査した。その結果、コンテスト出場メンバーとメンバー外では、出場メンバーのほうがコンテストが近づくにつれて練習時間が増える傾向にあることを示した。この結果から、コンテストに向けての達成動機が学習意欲に影響していると示唆される。

音楽における学習継続への取り組みを行った研究には、森ほか（2012）が挙げられる。森ほか（2012）は、ピアノ演奏において、同じ曲を練習している他の人と楽譜への書き込みを共有するシステム BondScore を開発し、孤独感の解消およびモチベーションとの関連を検討した。その結果、他の人からの自分の

書き込みに対するコメントにより仲間意識や連帯感が生じ、それが再び相手から自分へのコメントを読みたいというモチベーションの維持・向上にも繋がることを示した。さらに、より客観的な結果を得るため、練習時間の比較実験を行った結果、開発したシステムが効果的に外的な動機づけを与える可能性が示唆された。

齊藤（2008）、森ほか（2012）の研究から、音楽における学習意欲を高めるためには、達成動機を高めることや孤独感を解消するような支援を行うことが有用であると示唆される。

スポーツにおける学習意欲の要因を調査した研究には、上地（2011）が挙げられる。上地（2011）は、大学生を対象に運動・スポーツ場面における同一視と動機づけの自己調整スタイルとの関係について調査した。その結果、男女ともに、同一視経験のある者は、運動・スポーツを行うことの価値を自分の中に内在化させていたこと、さらに同一視経験のある男子においては、同一視の傾向が強い者ほど、より運動・スポーツの価値の内在化が進んでいた（自律的に運動・スポーツに取り組んでいた）ことを示した。

スポーツにおける学習継続への取り組みを行った研究には、名取（2007）が挙げられる。名取（2007）は、指導者のことばがけが

少年サッカー競技者の「やる気」に及ぼす影響について、ことばがけに対する「理由認知」と「感情」という認知的側面との関連から検討した。その結果、否定的なフィードバックに比べ、肯定的なフィードバックにより「やる気」が高まることを明らかにした。また、認知的側面との関連では、ことばがけに対して「教授的理由」と捉えることで「安堵感情」が高まり、「やる気」が高まることが示された一方で、失敗した際の肯定的なフィードバックについてはこの関連がみられなかった。これらの結果から、競技者の動機づけを高めるためには、指導者が目標に合致した基準に従ったフィードバックを行うことが有効であると示唆している。

上地（2011）、名取（2007）の研究から、スポーツにおける学習意欲を高めるためには、同一視の傾向の強さを高めることや、目標に合致した基準に従ったフィードバックを行うことが有用であると示唆される。

1.2. 問題提起

生涯学習のなかでも、関心が高まっている音楽とスポーツに着目し、これらの学習意欲の要因特定や学習を継続するための取り組みについて上記に取り上げた。しかし、これまでに述べてきた先行研究では、学習の動機づけに直接関連する要因の特定や、その要因への介入のみが扱われており、学習者を取り巻く外的要因や状況の観点からは検討されていない。実際の学習においては、経済的な問題や時間的な問題、多忙による精神的余裕のなさなど、学習には直接関連しない要因や状況によって、学習に対する意欲が変化する可能性が想定される。すなわち、経済的余裕や時間的余裕、精神的余裕などという生活におけるゆとりは学習意欲に関連している可能性があるのではないだろうか。

以上のことから、本研究では、生涯学習のなかでも音楽（楽器演奏）に着目し、学習者を取り巻く外的要因や状況の観点を含めた学習意欲との関連を検討する。また、生涯学習という観点から一般成人を対象とすることとした。

2. 方法

2.1. 目的

本研究では、音楽（楽器演奏）に着目し、どのような要因が楽器を学ぶ意欲に影響を及ぼすのか、生活におけるゆとりとの関連から検討することを目的とした。

2.2. 調査対象・調査方法・調査時期

楽器事業を主とする企業が提供している楽器関連オンラインメンバーへの登録者56770名を対象とし、無記名式によるオンライン質問紙調査を行った。回答時間は約5分であった。調査は、2013年11月に実施し、回答期間は14日間とした。

2.3. 調査項目

2.3.1. 楽器を学ぶ意欲尺度

楽器を学ぶ意欲を測定するため、楽器を学ぶ意欲尺度46項目を作成した。回答方法は「全くちがう」「かなりちがう」「ややちがう」「どちらとも言えない」「ややそうだ」「かなりそうだ」「全くそうだ」の7件法とした。回答結果はそれぞれ1点から7点に得点化した。

2.3.2. ゆとり感尺度

生活におけるゆとり感を測定するため、古川ほか（1993）によって作成されたゆとり感尺度から5因子35項目を用いた。回答方法は「全くちがう」「かなりちがう」「ややちがう」「どちらとも言えない」「ややそうだ」「かなりそうだ」「全くそうだ」の7件法とした。回答結果はそれぞれ1点から7点に得点化した。

3. 結果

3.1. 分析対象

調査の結果、2497名から回答が得られた（回答率4.4%）。全回答者のうち、年齢が20歳未満の回答者73名、すべて同一の回答をしていた11名は分析対象外とした。最終的に、2413名（男性1122名、女性1291名；20代73名、30代412名、40代994名、50代653名、60代以上281名；有効回答率4.3%）が分析対象となった。

いての理論的説明がほしい」「理論を含めて音楽を学びたい」などの6項目から構成されたことから「理論的学習志向」と命名した。第3因子は、「楽器を習得したら人前で発表したい」「楽器を弾くことで注目されたい」などの5項目から構成されたことから「披露欲求」と命名した。第4因子は、「詳しく知っている楽器がある」「自分にとって楽器は身近なものである」などの5項目から構成されたことから「楽器への親近感」と命名した。第5因子は、「楽器が壊れたら他にすることがなくて困ると思う」「楽器がなくなると楽しく暮らせないような気がする」などの3項目

から構成されたことから「楽器への愛着」と命名した。第6因子は、「難しいと思っても最後まで諦めない」「毎回の課題をこなす自信がある」などの3項目から構成されたことから「楽器習得への自信」と命名した。第7因子は、「憧れの演奏家に近づきたい」「憧れの人の演奏スタイルを学びたい」の2項目から構成されたことから「憧れ・模倣欲求」と命名した。

3.2.2. ゆとり感尺度

ゆとり感尺度について探索的因子分析を行った(最尤法, プロマックス回転)。その結果, 解釈可能な5因子 29項目が得られた。5因

表2 ゆとり感尺度の探索的因子分析結果

| | I | II | III | IV | V | |
|--|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 第1因子 生活的余裕 ($\alpha=.848$) | | | | | | |
| 31 私は今の生活に満足している | .894 | -.115 | -.011 | .048 | -.081 | |
| 24 私の生活は充実している | .772 | .181 | -.087 | -.026 | -.045 | |
| 13 安らぎのある生活を送っている | .725 | -.072 | .288 | -.060 | .004 | |
| 33 私の生活は安定している | .671 | -.101 | -.054 | .317 | -.025 | |
| 16 精神的な余裕がある | .489 | .115 | .284 | .027 | .016 | |
| 32 何かと気に入らないことがある* | -.457 | -.011 | -.003 | .042 | -.040 | |
| 2 家族水入らずで過ごすことが多い | .430 | -.172 | .061 | -.020 | .061 | |
| 30 先の見通しはだいたいつく | .393 | .233 | -.091 | .132 | .004 | |
| 22 家族や友人とよく旅行に出かける | .386 | .059 | .034 | .019 | .003 | |
| 第2因子 挑戦できる余裕 ($\alpha=.822$) | | | | | | |
| 8 いつも向上しようと心がけている | -.156 | .738 | -.112 | -.002 | -.003 | |
| 4 私には遊び心がある | -.228 | .712 | .213 | .092 | -.091 | |
| 18 何か新しいことを始める意欲が十分ある | -.144 | .613 | .084 | .015 | .123 | |
| 28 何事も楽しんでやっている | .342 | .579 | .006 | -.196 | -.051 | |
| 25 私には大きな目標がある | .024 | .575 | -.129 | -.053 | .074 | |
| 29 私は自分に自信がある | .270 | .495 | -.123 | .053 | -.005 | |
| 35 たいていの事には対処できる | .264 | .482 | -.131 | -.001 | .030 | |
| 10 交友関係は豊かだ | .059 | .445 | -.014 | .022 | .069 | |
| 9 仕事抜きでよく遊ぶ | -.033 | .400 | .244 | .024 | -.115 | |
| 21 感情を素直に表すことができる | .188 | .385 | -.019 | -.082 | -.005 | |
| 7 仕事以外には趣味がない* | .113 | -.363 | -.125 | -.037 | .045 | |
| 第3因子 時間的余裕 ($\alpha=.767$) | | | | | | |
| 5 休暇は十分にある | .015 | .022 | .840 | .061 | -.018 | |
| 3 自分の自由になる時間がある | -.101 | .176 | .623 | .115 | -.046 | |
| 12 休暇が好きなきに取れる | .085 | -.043 | .615 | -.072 | .057 | |
| 15 労働時間が長すぎる* | -.120 | .147 | -.579 | .129 | -.073 | |
| 第4因子 経済的余裕 ($\alpha=.823$) | | | | | | |
| 1 経済的な余裕がある | .031 | .024 | -.028 | .865 | .025 | |
| 14 たくわえは十分ある | .172 | -.055 | .004 | .700 | .039 | |
| 第5因子 環境的余裕 ($\alpha=.700$) | | | | | | |
| 20 会社の施設・設備は充実している | -.027 | .010 | -.043 | .075 | .728 | |
| 17 職場のスペースはゆったりとしている | -.010 | -.010 | .089 | -.007 | .685 | |
| 19 美しい環境に恵まれている | .213 | .174 | .077 | -.025 | .388 | |
| *逆転項目 | 因子間相関 | I | II | III | IV | V |
| | I | - | .582 | .415 | .501 | .504 |
| | II | | - | .315 | .258 | .324 |
| | III | | | - | .256 | .257 |
| | IV | | | | - | .223 |
| | V | | | | | - |

子による分散の説明率は 53.16%であった (表 2)。また、共分散構造分析を用いて因子構造の適合性を検証した結果、適合度の指標は GFI=.859, AGFI=.833, CFI=.824, RMSEA=.073 となり、モデルを受容できる結果が得られた。α 係数は、第 1 因子が α=.848, 第 2 因子は α=.822, 第 3 因子は α=.767, 第 4 因子は α=.823, 第 5 因子は α=.700 であった。尺度全体の α 係数は.902 であった。

因子名は以下のように決定した。第 1 因子は、「私は今の生活に満足している」「私の生活は充実している」などの 9 項目から構成されたことから「生活的余裕」と命名した。第 2 因子は、「いつも向上しようと心がけている」「何か新しいことを始める意欲が十分ある」などの 11 項目から構成されたことから「挑戦できる余裕」と命名した。第 3 因子は、「休暇は十分にある」「自分の自由になる時間がある」などの 4 項目から構成されたことから「時間的余裕」と命名した。第 4 因子は、「経済的な余裕がある」「たくわえは十分ある」の 2 項目から構成されたことから「経済的余裕」と命名した。第 5 因子は、「会社の施設・設備は充実している」「美しい環境に恵まれている」などの 3 項目から構成されたことから「環境的余裕」と命名した。

3.3. 生活におけるゆとりが楽器を学ぶ意欲に及ぼす影響

ゆとり感尺度の各因子を独立変数、楽器を学ぶ意欲尺度 (尺度全体および各因子) を従属変数として、強制投入法における重回帰分析を行った。独立変数間の相関係数は中程度以下であったため、多重共線性の問題はないと考えられる (表 3)。重回帰分析の結果を以下に示す (表 4)。

3.3.1. 生活におけるゆとりが楽器を学ぶ意欲 (尺度全体) に及ぼす影響

重回帰分析の結果、決定係数は.198 であり、0.1%水準で有意であった ($F(5,2407)=118.56, p<.001$)。楽器を学ぶ意欲全体に対しては、生活的余裕が有意な負の係数を示し ($\beta =-.178, p<.001$)、挑戦できる余裕と環境的余裕は有意な正の係数を示した ($\beta =.492, p<.001; \beta =.096, p<.001$)。

3.3.2. 生活におけるゆとりが楽器を学ぶ意欲の「向上心」に及ぼす影響

重回帰分析の結果、決定係数は.166 であり、0.1%水準で有意であった ($F(5,2407)=95.84, p<.001$)。向上心に対しては、生活的余裕と経済的余裕が有意な負の係数を示し ($\beta =-.202, p<.001; \beta =-.052, p<.05$)、挑戦できる余裕は有意な正の係数を示した ($\beta =.473, p<.001$)。

3.3.3. 生活におけるゆとりが楽器を学ぶ意欲の「理論的学習志向」に及ぼす影響

重回帰分析の結果、決定係数は.076 であり、

表 3 各測定値の平均と標準偏差, 相関係数

| | 平均 | SD | 相関係数 | | | | |
|-----------------|------|------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | | 生活的余裕 | 挑戦できる余裕 | 時間的余裕 | 経済的余裕 | 環境的余裕 |
| 生活的余裕 | 4.20 | 0.96 | — | .554*** | .423*** | .539*** | .494*** |
| 挑戦できる余裕 | 4.67 | 0.78 | | — | .297*** | .269*** | .369*** |
| 時間的余裕 | 4.34 | 1.18 | | | — | .235*** | .298*** |
| 経済的余裕 | 3.44 | 1.35 | | | | — | .291*** |
| 環境的余裕 | 4.02 | 1.07 | | | | | — |
| 楽器を学ぶ意欲 尺度全体 | 4.98 | 0.76 | .117*** | .415*** | .071** | .030 | .175*** |
| 向上心 | 5.74 | 0.79 | .054** | .363*** | .069** | -.021 | .094*** |
| 理論的学習志向 | 4.74 | 0.92 | .047* | .242*** | .033 | .035 | .118*** |
| 披露欲求 | 4.60 | 1.13 | .089*** | .341*** | .018 | .009 | .144*** |
| 楽器への親近感 | 5.11 | 1.05 | .181*** | .349*** | .082*** | .063** | .183*** |
| 楽器への愛着 | 4.30 | 1.30 | .048* | .180*** | .057** | .015 | .090*** |
| 楽器習得への自信 | 4.58 | 1.05 | .192*** | .425*** | .091*** | .092*** | .191*** |
| 憧れ・模倣欲求 | 4.54 | 1.51 | .010 | .207*** | .015 | -.011 | .102*** |

* $p<.05$ ** $p<.01$ *** $p<.001$

表4 重回帰分析結果と標準偏回帰係数 (β)

| | 楽器を学ぶ意欲 | | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|--------------------|---------|---------|---------|-----------|
| | 尺度全体 | I 向上心 | II 理論的 | III 披露欲求 | IV 親近感 | V 愛着 | VI 自信 | VII 憧れ・模倣 |
| 生活的余裕 | -.178*** | -.202*** | -.169*** | -.134*** | -.022 | -.102** | -.082** | -.176*** |
| 挑戦できる余裕 | .492*** | .473*** | .302*** | .412*** | .348*** | .211*** | .453*** | .278*** |
| 時間的余裕 | -.022 | .018 | -.017 | -.064** | -.029 | .022 | -.031 | -.018 |
| 経済的余裕 | -.030 | -.052* | .023 | -.040 ⁺ | -.037 | -.009 | .000 | -.015 |
| 環境的余裕 | .096*** | .029 | .089*** | .089*** | .085*** | .059* | .073** | .095*** |
| R^2 | .198*** | .166*** | .076*** | .140*** | .128*** | .039*** | .188*** | .065*** |

⁺ $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

0.1%水準で有意であった ($F(5,2407)=39.50$, $p < .001$)。理論的学習志向に対しては、生活的余裕が有意な負の係数を示し ($\beta = -.169$, $p < .001$)、挑戦できる余裕と環境的余裕は有意な正の係数を示した ($\beta = .302$, $p < .001$; $\beta = .089$, $p < .001$)。

3.3.4. 生活におけるゆとりが楽器を学ぶ意欲の「披露欲求」に及ぼす影響

重回帰分析の結果、決定係数は.140であり、0.1%水準で有意であった ($F(5,2407)=78.22$, $p < .001$)。披露欲求に対しては、生活的余裕と時間的余裕が有意な負の係数を示し ($\beta = -.134$, $p < .001$; $\beta = -.064$, $p < .01$)、経済的余裕は有意傾向の負の係数を示した ($\beta = -.040$, $p < .10$)。挑戦できる余裕と環境的余裕は有意な正の係数を示した ($\beta = .412$, $p < .001$; $\beta = .089$, $p < .001$)。

3.3.5. 生活におけるゆとりが楽器を学ぶ意欲の「楽器への親近感」に及ぼす影響

重回帰分析の結果、決定係数は.128であり、0.1%水準で有意であった ($F(5,2407)=70.91$, $p < .001$)。楽器への親近感に対しては、挑戦できる余裕と環境的余裕は有意な正の係数を示した ($\beta = .348$, $p < .001$; $\beta = .085$, $p < .001$)。

3.3.6. 生活におけるゆとりが楽器を学ぶ意欲の「楽器への愛着」に及ぼす影響

重回帰分析の結果、決定係数は.039であり、0.1%水準で有意であった ($F(5,2407)=19.77$, $p < .001$)。楽器への愛着に対しては、生活的余裕が有意な負の係数を示し ($\beta = -.102$, $p < .01$)、挑戦できる余裕と環境的余裕は有意な正の係数を示した ($\beta = .211$, $p < .001$; $\beta = .059$, $p < .05$)。

3.3.7. 生活におけるゆとりが楽器を学ぶ意欲の「楽器習得への自信」に及ぼす影響

重回帰分析の結果、決定係数は.188であり、

0.1%水準で有意であった ($F(5,2407)=111.60$, $p < .001$)。楽器習得への自信に対しては、生活的余裕が有意な負の係数を示し ($\beta = -.082$, $p < .01$)、挑戦できる余裕と環境的余裕は有意な正の係数を示した ($\beta = .453$, $p < .001$; $\beta = .073$, $p < .01$)。

3.3.8. 生活におけるゆとりが楽器を学ぶ意欲の「憧れ・模倣欲求」に及ぼす影響

重回帰分析の結果、決定係数は.065であり、0.1%水準で有意であった ($F(5,2407)=33.64$, $p < .001$)。憧れ・模倣欲求に対しては、生活的余裕が有意な負の係数を示し ($\beta = -.176$, $p < .001$)、挑戦できる余裕と環境的余裕は有意な正の係数を示した ($\beta = .278$, $p < .001$; $\beta = .095$, $p < .001$)。

4. 考察

4.1. 生活におけるゆとりが楽器を学ぶ意欲に及ぼす影響

分析の結果、生活的余裕は楽器を学ぶ意欲の「向上心」「理論的学習志向」「披露欲求」「楽器への愛着」「楽器習得への自信」「憧れ・模倣欲求」因子に負の影響を及ぼしていた。すなわち、「楽器への親近感」を除く、すべての因子に負の影響を及ぼしており、生活的余裕がない人ほど、楽器を学ぶ意欲が高いことが示された。生活的余裕とは、「私は今の生活に満足している」「私の生活は充実している」「精神的な余裕がある」「何かと気に入らないことがある(逆転項目)」など、生活における満足感や充実感、精神的な余裕を表す因子である。すなわち、生活的余裕がない人ほどストレスを感じている可能性が考えられる。ストレス対処行動の一つとしては、趣味を行うということが、これまでの調査により明らかにされている(飯出・鈴木 2007, 梶

原ほか 2009 など). したがって, 生活的余裕がない人ほど, 楽器という趣味を通して気分転換を図り, ストレスへの対処を行っている」と推察される.

挑戦できる余裕においては, 楽器を学ぶ意欲のすべての因子に正の影響を及ぼしていた. すなわち, 挑戦できる余裕がある人ほど, 楽器を学ぶ意欲が高いことが示された. また, 他のゆとり因子と比較すると, 最も強い影響力が示された. 挑戦できる余裕とは, 「いつも向上しようと心がけている」「私には遊び心がある」「何か新しいことを始める意欲が十分ある」など, 何かに挑戦しようとする気持ちに余裕があることを表す因子である. 楽器という余暇学習から得られる技能は明示的な利益を生みにくい(徳弘・比嘉 2013). そのため, 楽器を学ぶ意欲には, 向上心や遊び心などの挑戦できる余裕が重要になり, 挑戦できる余裕がある人ほど, 楽器を学ぶ意欲が高くなると考えられる.

5. 今後の課題

本研究では, 重回帰分析により, 楽器を学ぶ意欲と生活におけるゆとりとの関連を検討したため, 下位尺度同士の因果モデルは検討されていない. そのため, 今後は, 下位尺度同士の因果モデルや, 過去と現在の音楽活動の経験等を組み入れた因果モデルを検討する必要がある.

6. 結論

本研究では, 音楽(楽器演奏)に着目し, どのような要因が楽器を学ぶ意欲に影響を及ぼすのか, 生活におけるゆとりとの関連から検討した. その結果, 次のことが明らかになった.

- 1) 楽器を学ぶ意欲尺度の因子として, 「向上心」「理論的学習志向」「披露欲求」「楽器への親近感」「楽器への愛着」「楽器習得への自信」「憧れ・模倣欲求」の7因子, ゆとり感尺度の因子として, 「生活的余裕」「挑戦できる余裕」「時間的余裕」「経済的余裕」「環境的余裕」の5因子が抽出された.
- 2) 楽器を学ぶ意欲を従属変数, ゆとり感尺

度の5因子を独立変数として重回帰分析を行った. その結果, 生活的余裕では, 「楽器への親近感」を除く, すべての楽器を学ぶ意欲の因子に負の影響を及ぼしており, 生活的余裕がない人ほど, 楽器を学ぶ意欲が高いことが示された. 挑戦できる余裕では, 楽器を学ぶ意欲のすべての因子に正の影響を及ぼしており, 挑戦できる余裕がある人ほど, 楽器を学ぶ意欲が高いことが示された. また, 他のゆとり因子と比較すると, 最も強い影響力を示しており, 楽器を学ぶ意欲に対しては, 挑戦できる余裕が重要な要因であることが示された.

参考文献

- 古川秀夫, 山下京, 八木隆一郎(1993) ゆとりの構造. 社会心理学研究, 9(3):171-180
- 飯出美枝子, 鈴木はるみ(2007) 成人看護学実習における実習の不安と生活状況の関連性について. 桐生短期大学紀要, 18: 125-130
- 梶原綾, 藤原有子, 藤塚千秋, 小海節美, 米谷正造, 木村一彦(2009) 平成10年度改訂学習指導要領下の「保健」授業におけるストレスマネジメント教育に関する研究. 川崎医療福祉学会誌, 18(2): 415-423
- 文部科学省(2013) 社会教育調査 平成23年度.
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/ (参照日 2013.12.29)
- 森郁彌, 西本一志, 小倉加奈代(2012) ピアノ独習の動機づけを目的とした「緩い連帯感」をもたらす電子楽譜"BondScore". 電子情報通信学会技術研究報告. MVE, マルチメディア・仮想環境基礎, 111(479), pp.133-138
- 内閣府(2012) 生涯学習に関する世論調査.
<http://www8.cao.go.jp/survey/h24/h24-gakushu/> (参照日 2013.12.29)
- 名取洋典(2007) 指導者のことばがけが少年サッカー競技者の「やる気」におよぼす影響. 教育心理学研究, 55(2): 244-254
- 齊藤忠彦(2008) 中学校吹奏楽部における冬

- 期練習の動機づけのあり方. 日本学校音楽教育研究会紀要, 12 : 56-57
- 徳弘太郎, 比嘉邦彦 (2013) 余暇学習の eLearning における価値認識と学習継続の判断についての提案. 日本テレワーク学会研究発表大会予稿集, 15, pp.74-76
- 上地広昭 (2011) 運動・スポーツ場面における同一視と動機づけの関係. 日本体育学会体育学研究 , 56(1) : 215-228